Part 1

CHAPTER 10

販売管理アプリケーションの開発⑧
詳細項目参照機能の追加

10.1. 見積情報の参照ブロックの作成

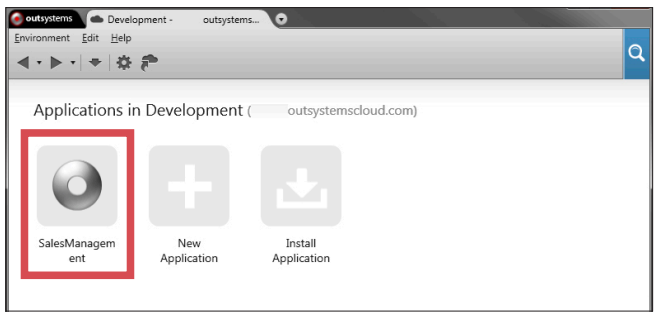
アプリケーションの変更を開始する

「SalesManagment」eSpaceを開いている場合はそのままで、開いていない場合は以下手順によりeSpaceを開きます。

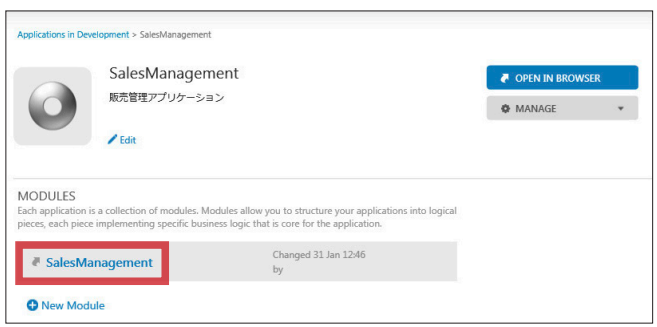
01 「SalesManagement」アプリケーションをクリックして開く。

02 「MODULES」から「SalesManagement」eSpaceをクリックする。

01



02



見積情報を表示するWeb Blockを作成する

01 Interfaceレイヤを開き、「MainFlow」を右クリックして、「Add Web Block」を選択する。

02 追加されたWeb Blockに「EstimationDetail」と名前を付ける。

- 「EstimationDetail」Web Blockが開いていることを確認する。

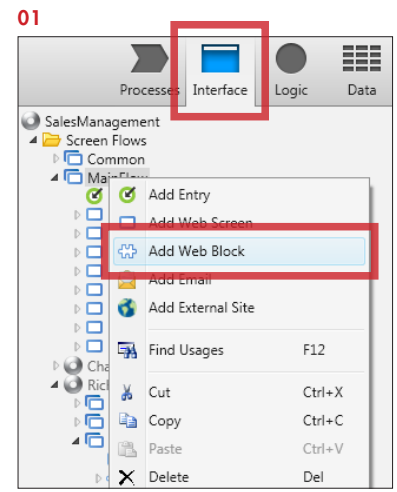
03 「EstimationDetail」Web Blockを右クリックして、「Add Input Parameter」を選択する。

- Input Parameterとして「EstimationId」を受け取り、そのIDに紐づくデータを表示するようにします。

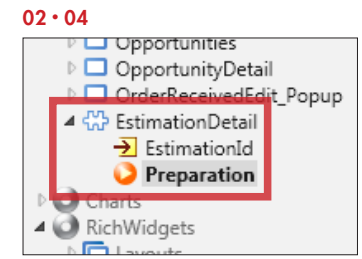
04 再度、「EstimationDetail」Web Blockを右クリックして、「Add Preparation」を選択する。

- Preparation Actionが開くことを確認します。

01



02・04



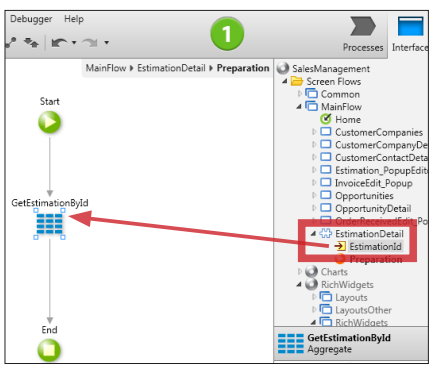
05 「EstimationDetail」Web Blockの「EstimationId」をドラッグし、「Start」の次にドロップする。

06 「EstimationDetail」Web Blockを開く。

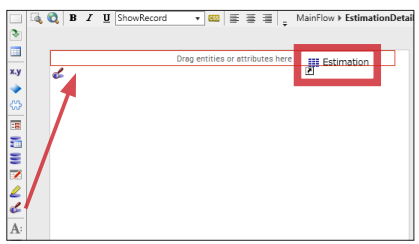
07 ツールボックスから、「Show Record」をドラッグし、コンテントキャンバスにドロップする。

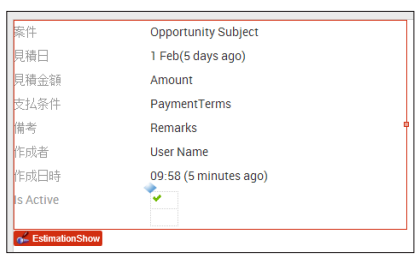
08 Data レイヤを開き、「Estimation」Entityをドラッグして、先に配置した「Show Record」の内部にドロップする。

05・06



07・08





09 配置した「Show Record」の「Source Record」プロパティに「GetEstimationById.List.Current」を指定する。

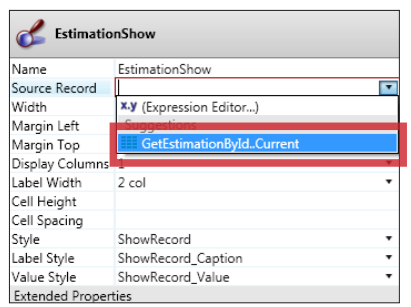
10 「案件」行は、上部の「Delete Item」で削除する。

11 「見積日」行と「作成日時」行のExpressionをそれぞれダブルクリックしてエディタを開き、「Date_PrettyFormat」Functionを取り除く。

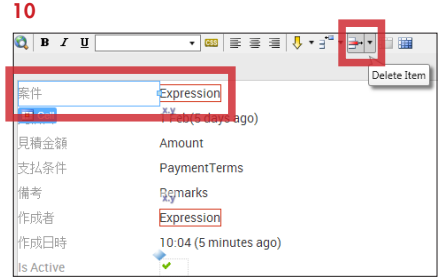
12 「見積金額」行のExpressionをそれぞれダブルクリックしてエディタを開き、小数点以下を表示させないため、「FormatCurrency」Functionの3つ目の引数を「2」から「0」に変更する。

13 「作成者」行のエラーを解消するため、「Show Record」を選択した際に表示されるAggregateのアイコンをクリックして、Aggregateを開く。

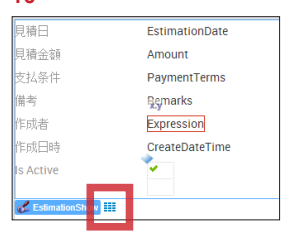
09



10



13

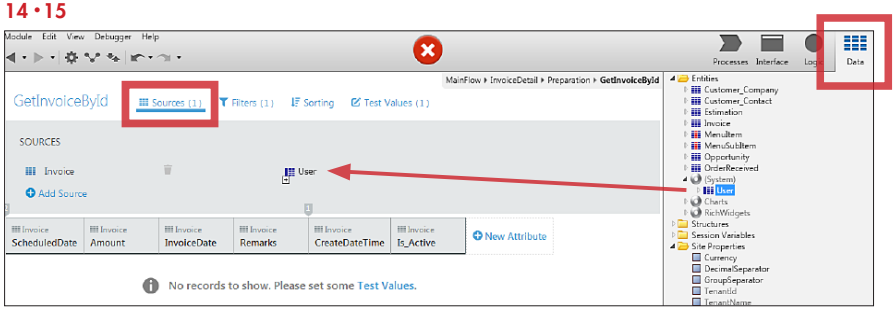


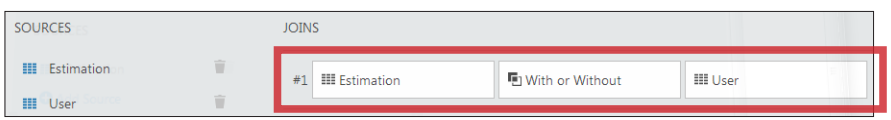
14 Aggregate「GetEstimationById」が開いたら、「Sources」をクリックする。

15 Dataレイヤを開き、「(Systems)」>「User」Entityをドラッグして Aggregate 表示部にドロップする。

- 「User」Entityと結合できたことを確認します。

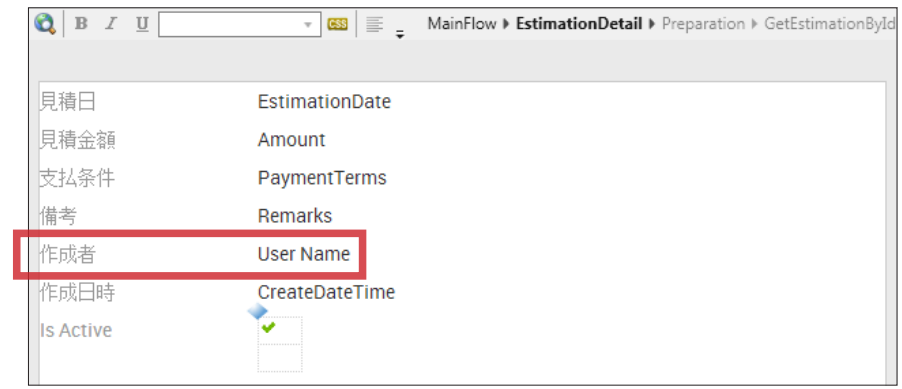
14・15





16「EstimationDetail」Web Blockを開き、「作成者」部分のエラーが解消されていることを確認する。

16



10.2. 受注情報の参照ブロックの作成

受注情報を表示するWeb Blockを作成する

受注情報も見積情報と同様に、Web Blockで作成していきます。

01 Interfaceレイヤを開き、「MainFlow」を右クリックして、「Add Web Block」を選択する。

02 追加されたWeb Blockに「OrderReceivedDetail」と名前を付ける。

- 「OrderReceivedDetail」Web Blockが開いていることを確認します。

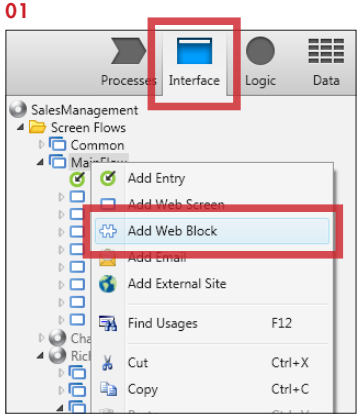
03 「OrderReceivedDetail」Web Blockを右クリックして、「Add Input Parameter」を選択する。

- Input Parameterとして「OrderReceivedId」を受け取り、そのIDに紐づくデータを表示するようにします。

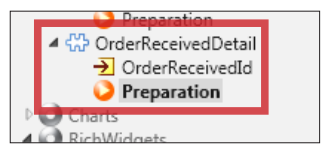
04 再度、「OrderReceivedDetail」Web Blockを右クリックして、「Add Preparation」を選択する。

- Preparation Actionが開くことを確認します。

01



02



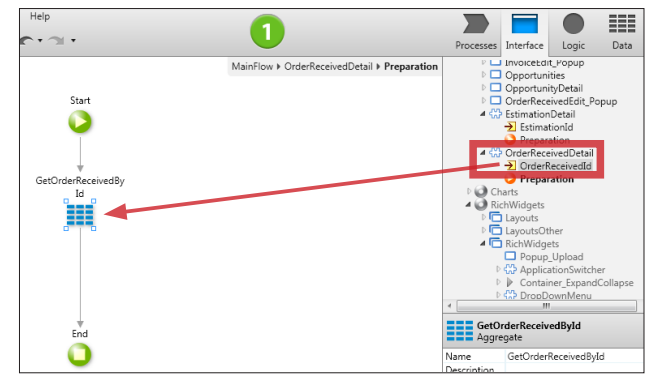
05 「OrderReceivedDetail」Web Blockの「OrderReceivedId」をドラッグし、「Start」の次にドロップする。

06 「OrderReceivedDetail」Web Blockを開く。

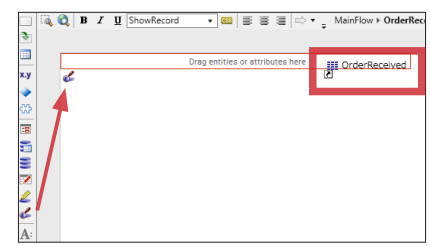
07 ツールボックスから、「Show Record」をドラッグし、コンテントキャンバスにドロップする。

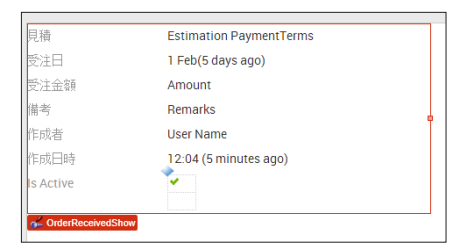
08 Dataレイヤを開き、「OrderReceived」Entityをドラッグして、先に配置した「Show Record」の内部にドロップする。

05・06



07・08





09 配置した「Show Record」の「Source Record」プロパティに「GetOrderReceivedById.List.Current」を指定する。

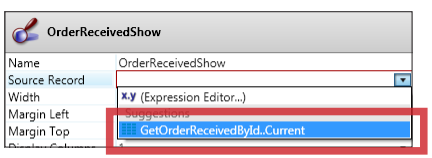
10 「見積」行は、上部の「Delete Item」で削除する。

11 「受注日」行と「作成日時」行のExpressionをそれぞれダブルクリックしてエディタを開き、「Date_PrettyFormat」Functionを取り除く。

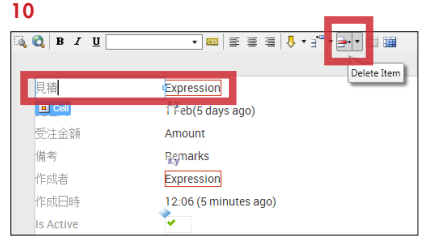
12 「受注金額」行のExpressionをそれぞれダブルクリックしてエディタを開き、小数点以下を表示させないため、「FormatCurrency」Functionの3つ目の引数を「2」から「0」に変更する。

13 「作成者」行のエラーを解消するため、「Show Record」を選択した際に表示されるAggregateのアイコンをクリックして、Aggregateを開く。

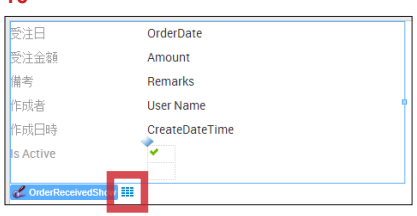
09



10



13



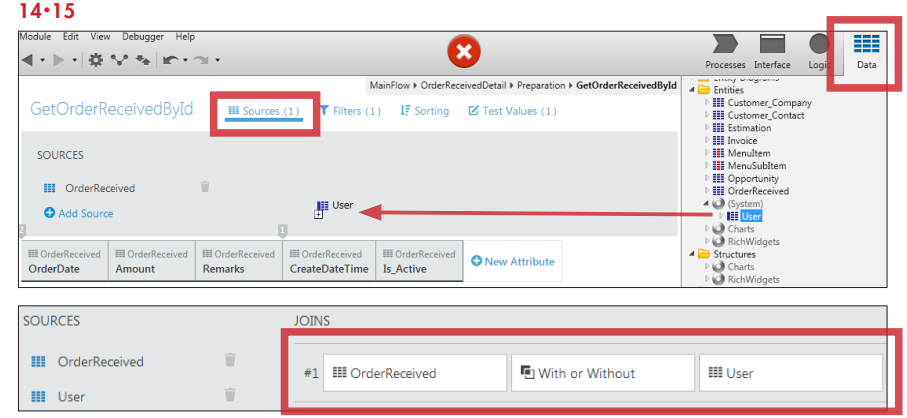
14 Aggregate「GetOrderReceivedById」が開いたら、「Sources」をクリックする。

15 Dataレイヤを開き、「(Systems)」>「User」Entityをドラッグして Aggregate表示部にドロップする。

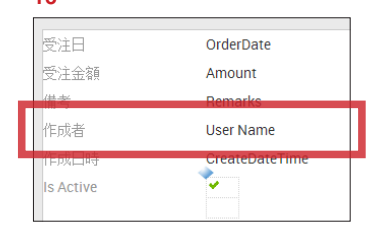
- 「User」Entityと結合できたことを確認します。

16 「OrderReceivedDetail」Web Blockを開き、「作成者」部分のエラーが解消されていることを確認する。

14･15



16



10.3. 請求情報の参照ブロックの作成

請求情報を表示するWeb Blockを作成する

請求情報も同様に、Web Blockで作成していきます。

01 Interfaceレイヤを開き、「MainFlow」を右クリックして、「Add Web Block」を選択する。

02 追加されたWeb Blockに「InvoiceDetail」と名前を付ける。

- 「InvoiceDetail」Web Blockが開いていることを確認します。

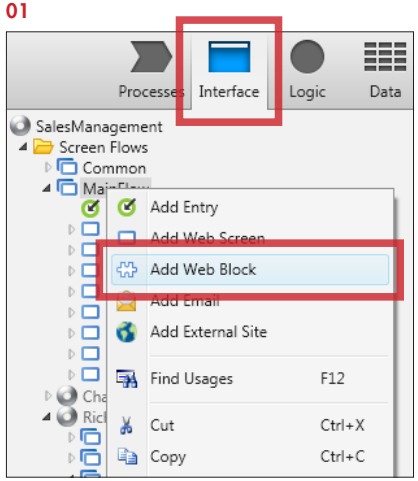
03 「InvoiceDetail」Web Blockを右クリックして、「Add Input Parameter」を選択する。

- Input Parameterとして「InvoiceId」を受け取り、そのIDに紐づくデータを表示するようにします。

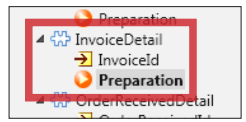
04 再度、「InvoiceDetail」Web Blockを右クリックして、「Add Preparation」を選択する。

- Preparation Actionが開くことを確認します。

01



02



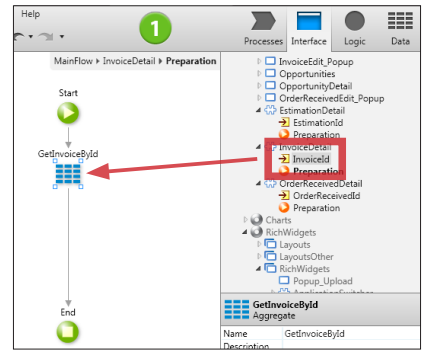
05 「InvoiceDetail」Web Blockの「InvoiceId」をドラッグし、「Start」の次にドロップする。

06 「InvoiceDetail」Web Blockを開く。

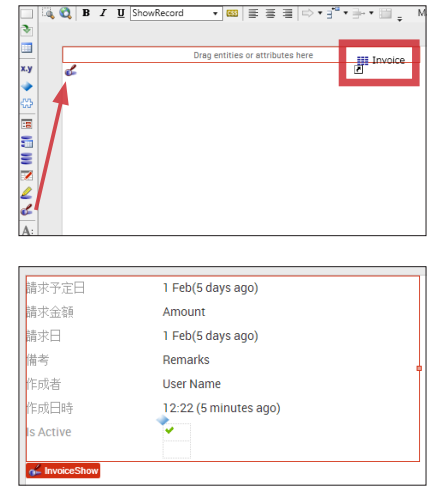
07 ツールボックスから、「Show Record」をドラッグし、コンテントキャンバスにドロップする。

08 Dataレイヤを開き、「Invoice」Entityをドラッグして、先に配置した「Show Record」の内部にドロップする。

05・06



07・08



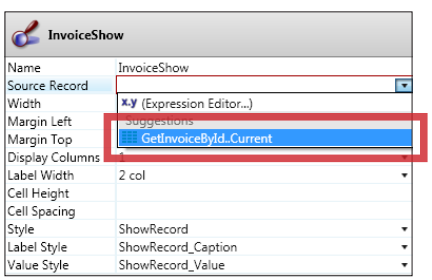
09 配置した「Show Record」の「Source Record」プロパティに「GetInvoiceById.List.Current」を指定する。

10 「請求予定日」「請求日」「作成日時」行のExpressionをそれぞれダブルクリックしてエディタを開き、「Date_PrettyFormat」Functionを取り除く。

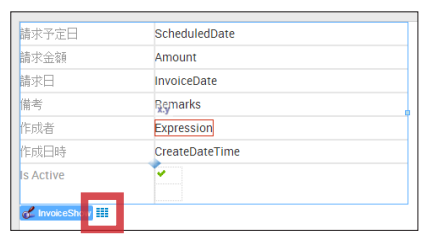
11 「請求金額」行のExpressionをそれぞれダブルクリックしてエディタを開き、小数点以下を表示させないため、「FormatCurrency」Functionの3つ目の引数を「2」から「0」に変更する。

12 「作成者」行のエラーを解消するため、「Show Record」を選択した際に表示されるAggregateのアイコンをクリックして、Aggregateを開く。

09



12



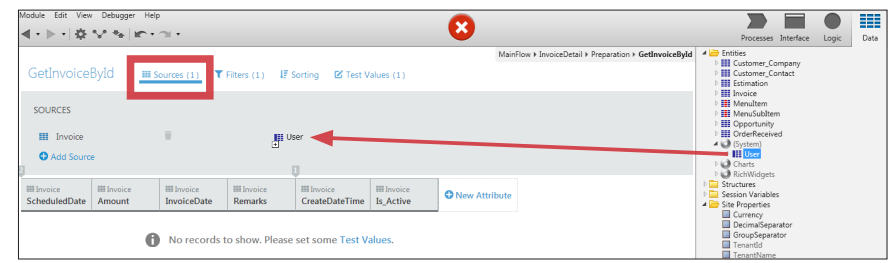
13 Aggregate「GetInvoiceById」が開いたら、「Sources」をクリックする。

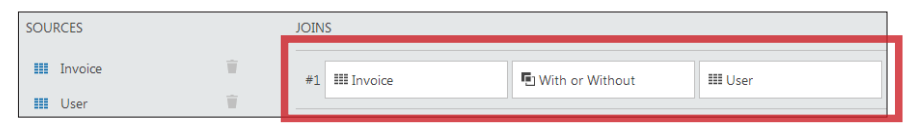
14 Dataレイヤを開き、「(Systems)」>「User」Entityをドラッグして Aggregate表示部にドロップする。

- 「User」Entityと結合できたことを確認します。

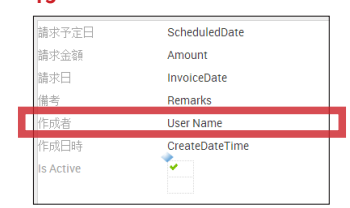
15 「InvoiceDetail」Web Blockを開き、「作成者」部分のエラーが解消されていることを確認する。

13・14





15



10.4. 見積詳細画面を作成する

作成したWeb Blockを利用して見積詳細画面を作成する

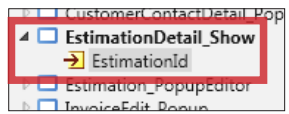
01 Interfaceレイヤを開き、「MainFlow」を右クリックして、「Add Web Screen」を選択する。

02 追加されたWeb Screenに「EstimationDetail_Show」と名前を付ける。

- 「EstimationDetail_Show」Web Screenが開いていることを確認します。

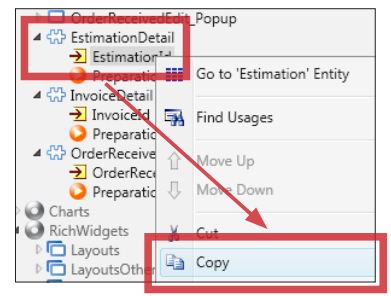
01

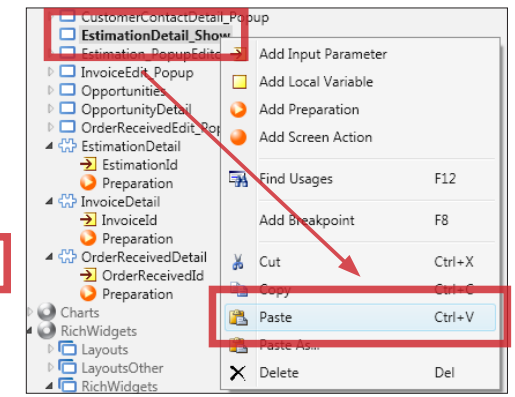
02



03 「EstimationDetail」Web BlockのInput Parameter「EstimationId」をコピーして、「EstimationDetail_Show」Web Screenのツリーにペーストする。

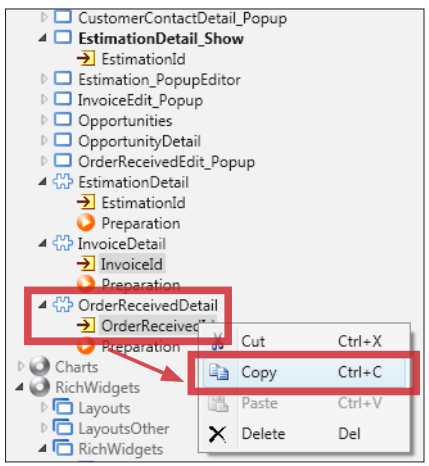
03

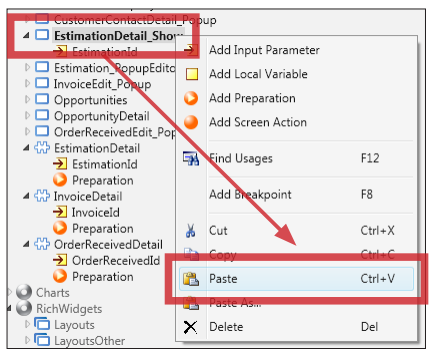




04 「InvoiceDetail」Web Blockの「InvoiceId」、「OrderReceivedDetail」Web Blockの「OrderReceivedId」もコピーして、「EstimationDetail_Show」にペーストします。

04

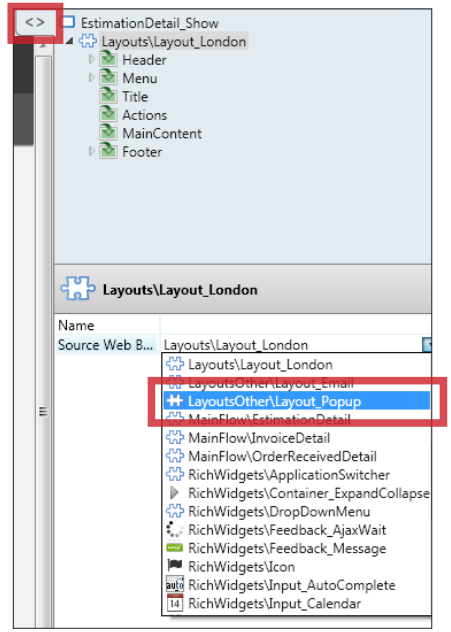




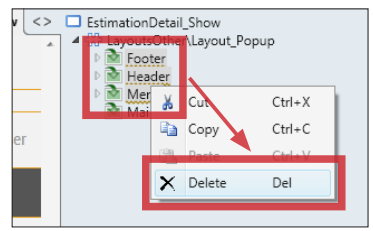
05 「Source Web Block」プロパティに設定されている「Layout\Layout_London」を「LayoutOther\Layout_Popup」に変更する。

06 「EstimationDetail_Show」Web Screenで「Widget Tree」を開き、警告が出ているPlace Holder「Footer」「Header」「Menu」を削除する。

05



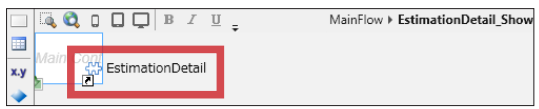
06

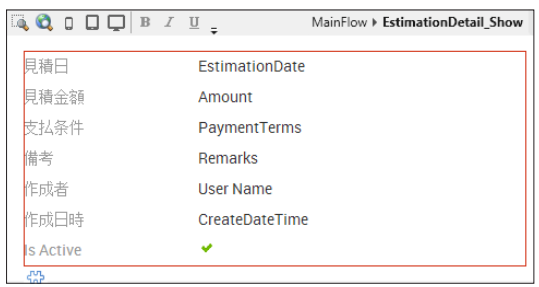


07 「EstimationDetail」Web Blockをドラッグし、「EstimationDetail_Show」Web Screenの Place Holder「Main Content」にドロップする。

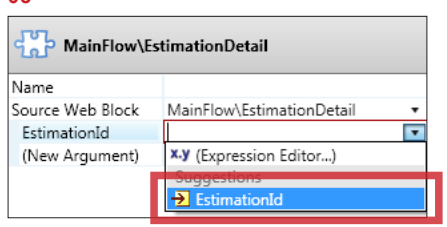
08 「EstimationDetail」Web Blockの引数として、「EstimationId」を設定する。

07





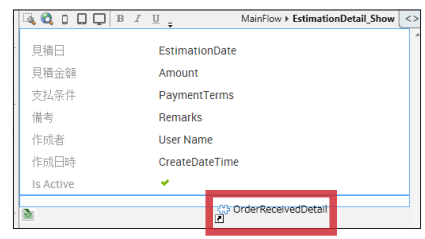
08



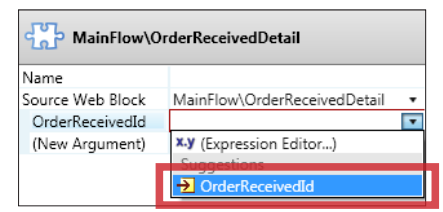
09 「OrderReceivedDetail」Web Blockをドラッグし、「EstimationDetail_Show」Web Screenの Place Holder「Main Content」にドロップする。

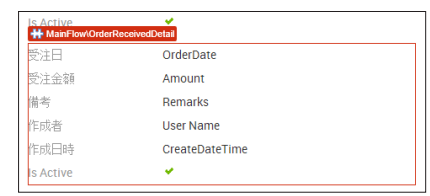
10 「OrderReceivedDetail」Web Blockの引数として、「OrderReceivedId」を設定する。

09



10

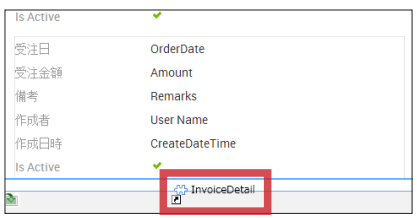




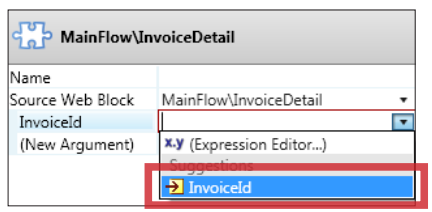
11 「InvoiceDetail」Web Blockをドラッグし、「EstimationDetail_Show」Web Screenの Place Holder「Main Content」にドロップする。

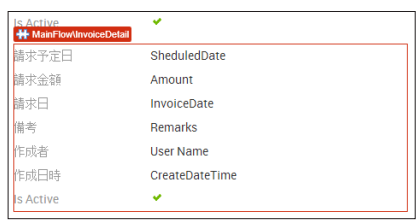
12 「InvoiceDetail」Web Blockの引数として、「InvoiceId」を設定する。

11



12



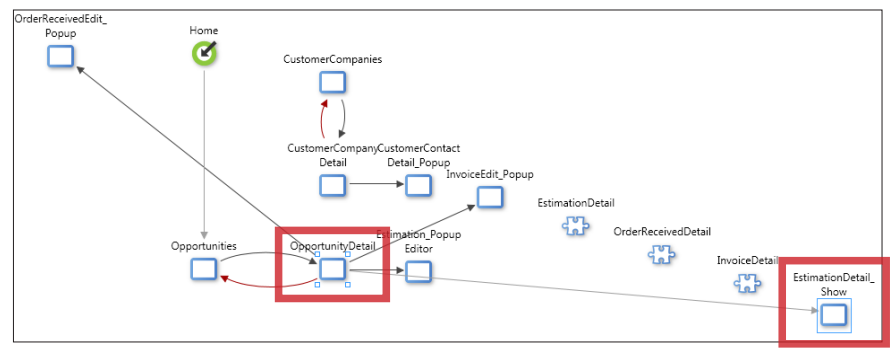


13 Interface レイヤを開き、「Screen Flows」>「MainFlow」をダブルクリックして開く。

14 「OpportunityDetail」Web Screenから「EstimationDetail_Show」Web Screenまでドラッグアンドドロップでフロー線を引く。

15 「OpportunityDetail」Web Screenをダブルクリックして開く。

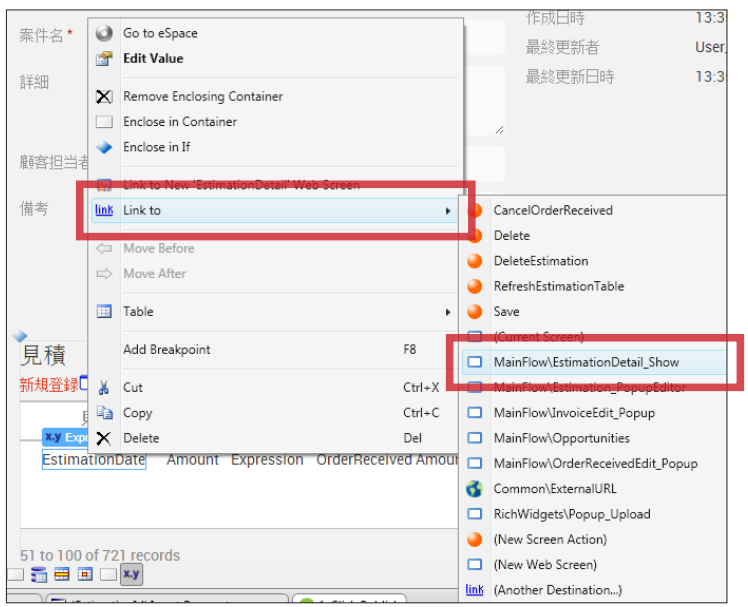
13・14・15



16 見積一覧の「見積日」列のExpressionを右クリックして、「Link to」>「MainFlow\EstimationDetail_Show」を選択する。

- 先ほど、「MainFlow」で「OpportunityDetail」Web Screenから、「EstimationDetail_Show」Web Screenまで接続したため、ここに表示されるようになりました。

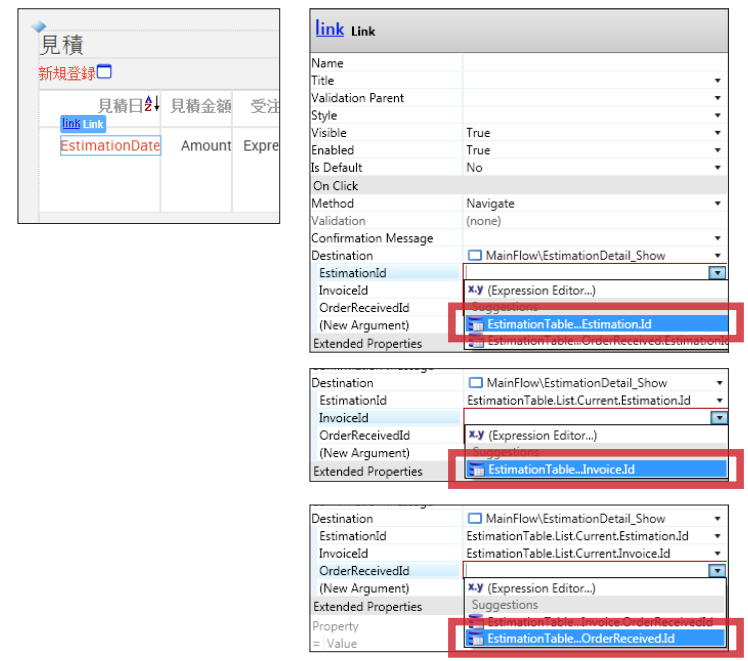
16



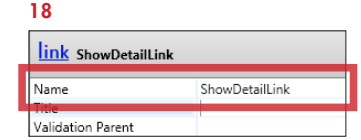
17 設定したリンクの3つのInput Parameterに下図に示す値を設定していく。

18 「Name」プロパティに「ShowDetailLink」と設定する。

17



18



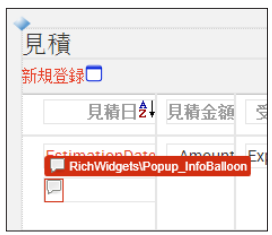
リードオンリーのポップアップで表示する

01 ツールボックスから「Web Block」をドラッグし、「見積日」のデータ列にドロップする。

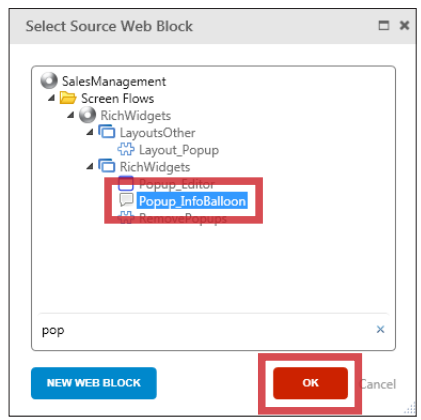
02 「Select Source Web Block」画面が開いたら、「Popup_InfoBaloon」を選択し、「OK」ボタンを押す。

03 「Popup_InfoBalloon」のプロパティ「LinkId」に「ShowDetailLink.Id」をセットする。

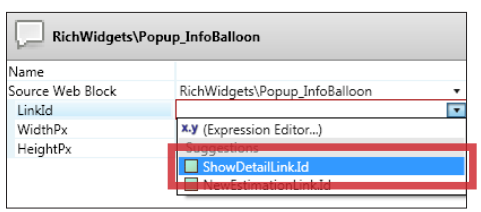
01



02



03



1-Click Publishをして、アプリケーションの動作を確認する

01 1-Click Publishボタンを押して、Publishを行う。

02 Open In Browserボタンを押して、ブラウザを起動する。

03 登録済案件を選択して、詳細／編集画面に遷移する。

04 見積一覧の「見積日」のリンクにマウスオーバーすると、見積、受注、請求の詳細を参照できることを確認する。

01

02

04